

一般廃棄物(ごみ)処理基本計画の目標値

1. 既存計画の達成状況

(1) 既存計画の目標値

既存計画の減量目標と資源収集目標を、以下に示します。

①減量目標

上位計画である豊川市環境基本計画（平成 27 年 3 月見直し）において定めたごみ減量目標を本計画にも適用します。

達成目標値

ごみ排出量原単位：980 g/人・日以下

この目標値は令和元年度において達成する目標値であり、目標年度である令和 2 年度はこの数値を維持していくものとします。

②資源収集目標

資源収集目標においても、豊川市環境基本計画で定めた資源化目標値(資源原単位：収集資源＋有価物回収)を適用します。

達成目標値

資源収集量原単位：330 g/人・日以上

この目標値は令和元年度で達成する目標値であり、目標年度である令和 2 年度はこの数値を維持していくものとします。

目標年度における資源収集量は、現状推移収集量 1 人 1 日当たり約 160 g に対して、約 170 g（106%）以上の資源収集量増加とします。

※既存計画 p 28、p 29 の抜粋

(2) 既存計画の達成状況

目標の達成状況を把握するため、既存基本計画の推計値と実績値を比較します。

①ごみ減量目標

ごみ排出量は、表 1-1 に示すとおりです。

原単位についてみると、推計値 995.2 g / 人・日に対し、実績が 1,012.0 g / 人・日となっており、16.8 g / 人・日、上回っています（図 1-1 参照）。

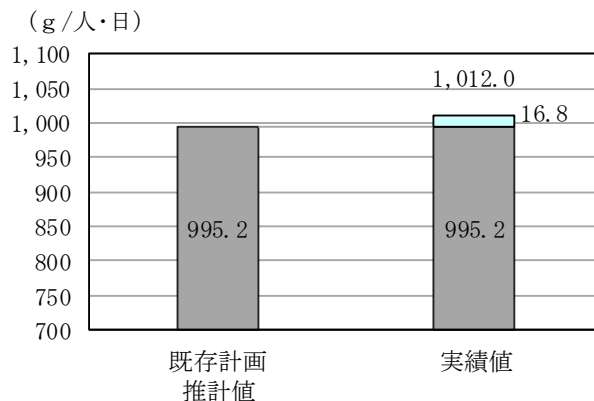


図 1-1 ごみ排出量原単位の比較[平成 30 年度]

表 1-1 ごみ排出量の比較

			既存基本計画		実績値
			推計値	目標値	
			平成30年度	令和 2 年度	平成30年度
総計	総排出量	t / 年	66,638	65,024	68,822
	原単位	g / 人・日	995.2	978.1	1,012.0

②資源収集目標

資源収集量は、表 1-2 に示すとおりです。

原単位についてみると、推計値 302.9 g / 人・日に対し、実績が 176.8 g / 人・日となっており、126.1 g / 人・日、下回っています（図 1-2 参照）。

要因の一つに、プラスチック製容器包装の分別収集計画の未実施が挙げられます。

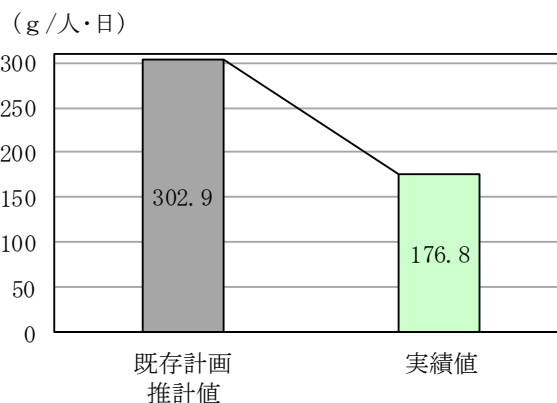


図 1-2 資源収集量原単位の比較[平成 30 年度]

表 1-2 資源収集量の比較

		既存基本計画		実績値
		推計値	目標値	
		平成30年度	令和 2 年度	平成30年度
総資源化収集量	t / 年	20,283	21,953	12,025
	g / 人・日	302.9	330.2	176.8

【参考】

表 1-3 ごみ種類別排出量の比較

		平成30年度		
		既存計画 推計値	実績値	達成 状況
人 口	人	183,444	186,318	—
収集可燃ごみ	t / 年	29,643	36,958	×
	g / 人・日	442.7	543.5	×
収集不燃ごみ	t / 年	904	1,145	×
	g / 人・日	13.5	16.8	×
危険ごみ	t / 年	87	126	×
	g / 人・日	1.3	1.9	×
粗大ごみ	t / 年	2,383	2,777	×
	g / 人・日	35.6	40.8	×
資 源	t / 年	14,445	8,170	×
	g / 人・日	215.7	120.1	×
計	t / 年	47,462	49,176	×
	g / 人・日	708.8	723.1	×
直接搬入可燃ごみ	t / 年	11,818	15,671	×
直接搬入不燃ごみ	t / 年	1,520	120	○
資 源	t / 年	3,616	2,223	×
計	t / 年	16,954	18,014	×
有価物回収	t / 年	2,222	1,632	×
総計	総排出量 t / 年	66,638	68,822	×
	原単位 g / 人・日	995.2	1,012.0	×

注) ごみは少なければ○、資源は多ければ○とする。

表 1-4 資源品目別収集量の比較

			平成30年度		
			既存計画 推計値	実績値	達成 状況
収 集	紙類	t / 年	8,091	5,705	×
		g / 人・日	120.8	83.9	×
	金属・缶類	t / 年	617	518	×
		g / 人・日	9.2	7.6	×
	びん類	t / 年	1,250	1,124	×
		g / 人・日	18.7	16.5	×
	古着	t / 年	691	209	×
		g / 人・日	10.3	3.1	×
	ペットボトル	t / 年	603	578	×
		g / 人・日	9.0	8.5	×
	白色トレイ	t / 年	67	23	×
		g / 人・日	1.0	0.3	×
	廃食用油	t / 年	12	13	○
		g / 人・日	0.2	0.2	○
直 接 搬 入	プラスチック製 容器包装	t / 年	3,114		—
		g / 人・日	46.5		—
	計	t / 年	14,445	8,170	×
		g / 人・日	215.7	120.1	×
	草木類 (以前は収集)	t / 年	321	133	×
		g / 人・日	4.8	2.0	×
	草木類	t / 年	3,295	2,090	×
		g / 人・日	49.2	30.7	×
	小 計	t / 年	3,616	2,223	×
		g / 人・日	54.0	32.7	×
	有価物回収	t / 年	2,222	1,632	×
		g / 人・日	33.2	24.0	×
	総資源化収集量	t / 年	20,283	12,025	×
		g / 人・日	302.9	176.8	×

2. 国や県の目標値等

上位計画である国や県の目標値等を整理すると、表 2-1 に示すとおりです。

国や県は、「ごみ排出量」、「1 人 1 日当たりの家庭ごみ排出量(資源ごみ等除く)」、「再生利用率」(=資源化率)、「最終処分量」の目標を立てています。

表 2-1 上位計画の目標値等

	国の基本方針	循環型社会形成 推進基本計画	愛知県廃棄物 処理計画	豊川市 総合計画	豊川市 環境基本計画
目標年度	令和 2 年度	令和 7 年度	令和 3 年度	令和 6 年度	令和元年度
ごみ排出量	平成24年度に 対し、約12% 削減		平成26年度に 対し、約 6 % 削減		
1 人 1 日当たりの ごみ排出量		約850 g / 人・日		978 g / 人・日	980 g / 人・日
1 人 1 日当たりの 家庭ごみ排出量 (資源ごみ等除く)	500 g / 人・日	約440 g / 人・日	500 g / 人・日		
資源収集量				330 g / 人・日	330 g / 人・日
再生利用率	約27%		約23%		
最終処分量	平成24年度に 対し、約14% 削減		平成26年度に 対し、約 7 % 削減		

注) は、本計画で目標を計画する予定の項目を示す。

3. 本計画での目標値の設定

国や県の目標値を参考に、本計画での目標を、①ごみ排出量原単位、②家庭系ごみ排出量原単位、③資源化率の設定を計画します。

①ごみ排出量原単位

ごみ排出量原単位は、920 g / 人・日以下とします。平成 30 年度実績 (1,012 g / 人・日) より、92 g / 人・日、9.1%の削減が必要です。

ごみ排出量原単位：920 g / 人・日以下（令和 11 年度）

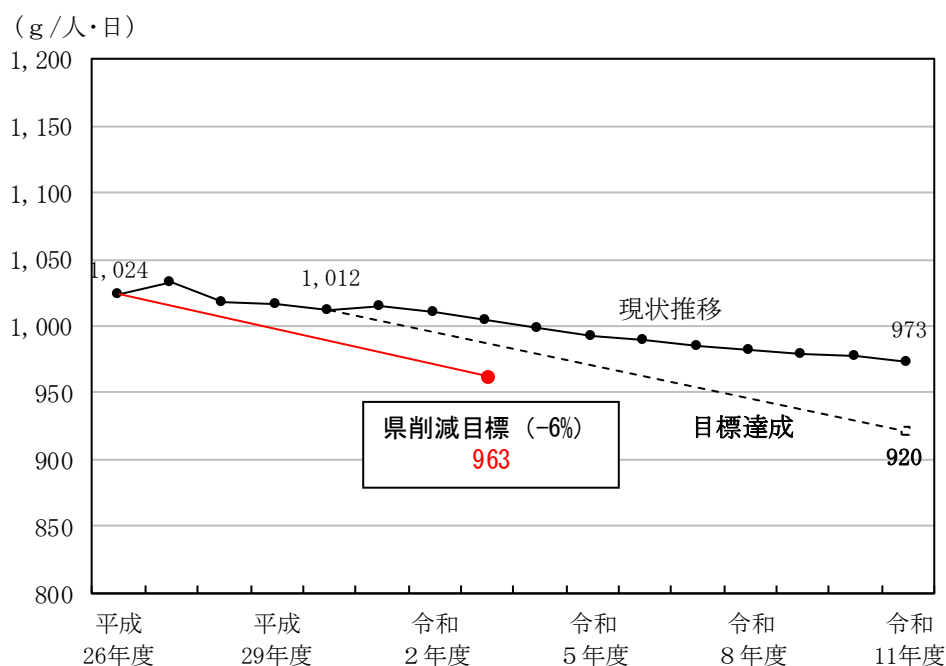


図 3-1 ごみ排出量原単位の実績及び見通し

《考え方》

新たな目標値は、現在の実績 (H30 : 1,012 g) や将来予測値 (現状推移 R11 : 973 g) から容易に達成できる目標値ではありませんが、県下同規模市の平均値 (表 3-1 参照) の値まで削減することを目指します。

将来予測とは 53 g の乖離があり、生ごみの減量などの発生抑制や事業系ごみの削減に関する取り組みなどにより削減を図ります (表 3-2 参照)。

表 3-1 愛知県下のごみ総排出量原単位〔平成 29 年度〕

	総人口	ごみ 総排出量	原単位
	人	t / 年	g / 人・日
瀬戸市	130,211	40,505	852
半田市	119,077	43,640	1,004
豊川市	186,021	68,966	1,016
刈谷市	150,843	55,033	1,000
安城市	187,860	62,906	917
西尾市	171,771	64,468	1,028
江南市	100,835	27,180	738
小牧市	152,944	48,976	877
稲沢市	137,592	40,104	799
東海市	114,479	36,248	867
計	1,451,633	488,026	921

注) 人口が10万～20万人の市

資料：一般廃棄物処理実態調査（平成29年度）

表 3-2 ごみ排出量原単位

(単位：g / 人・日)

			令和11年度
ごみ排出量【現状推移】			973
家庭系	ごみ	可燃ごみ	生ごみひとしぼり運動の実施
		生ごみの削減	排出抑制
事業系	ごみ	可燃ごみ	一般廃棄物減量資源化計画書の提出等
計			916.5

積算資料

- ・ 生ごみの水切り $533\text{g (可燃ごみ)} \times 40.97\% = 218.4\text{g (厨芥類)}$
 $218.4\text{g} \times 81\% (\text{水分}) = 176.9\text{g}$
 $5\% \text{削減} \quad 176.9\text{g} \times -5\% = \boxed{-8.8\text{g}}$
- ・ 生ごみの削減 $218.4\text{g (厨芥類)} - 8.8\text{g (水分)} = 209.6\text{g}$
 $5\% \text{削減} \quad 209.6\text{g} \times -5\% = \boxed{-10.5\text{g}}$
- ・ その他発生抑制の推進
 $(533\text{g (可燃ごみ)} - 8.8\text{g (水切り分)} - 10.5\text{g (生ごみの削減)})$
 $- 3.3\text{g (紙類・ペットボトルの分別徹底)}) \times -5\% = \boxed{-25.5\text{g}}$
- ・ 事業系ごみの減量
 $42.2\text{ t / 日 (事業系可燃ごみ)} \times -5\% = -2.1\text{ t / 日} (= \boxed{-11.7\text{g}})$

②家庭系ごみ排出量原単位

家庭系ごみ排出量(資源除く)が多く(表 3-3 参照)、家庭系ごみにおいても目標を設定します。

家庭系ごみ排出量原単位を、550 g/人・日以下とします。平成 30 年度実績(604 g/人・日)より、54 g/人・日、8.9%の削減が必要です。

家庭系ごみ排出量原単位：550 g/人・日以下(令和 11 年度)

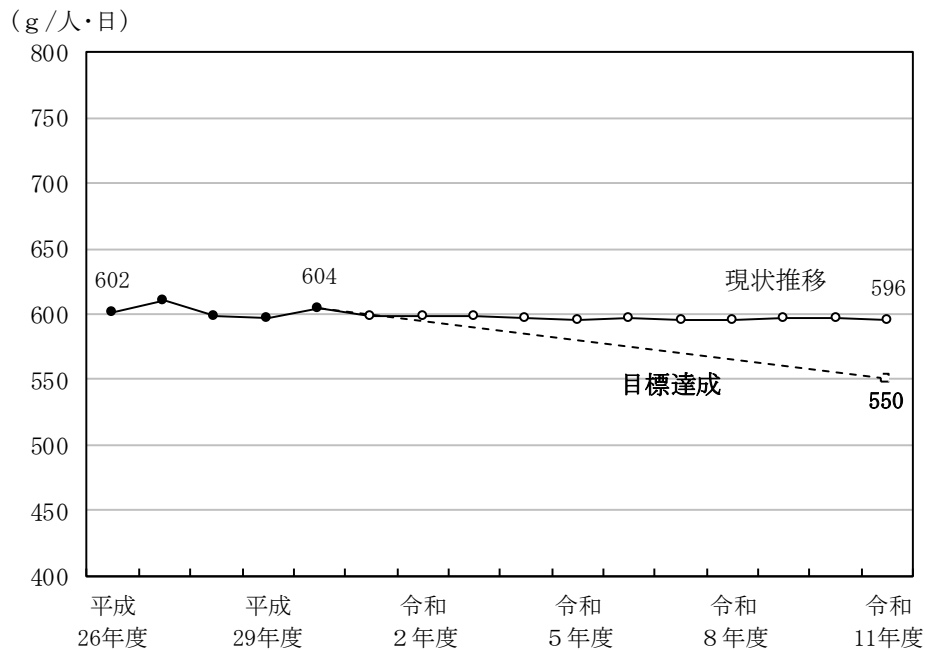


図 3-2 家庭系ごみ排出量原単位の実績及び見通し

《考え方》

国の基本方針や県の計画の「500 g/人・日」は厳しく、550 g/人・日を目指します。

現在の実績(H30:604 g)や将来予測値(現状推移 R11:596 g)から容易に達成できる目標値ではありませんが、県下同規模市の平均値近くまで削減することを目指します。

将来予測とは 46 g の乖離があり、生ごみの減量などの発生抑制や分別の徹底の推進の取り組みにより削減を図ります(表 3-4 参照)。

表 3-3 愛知県下の生活系原単位（資源除く）

	総人口	生活系ごみ 搬入量 (資源ごみ 除く)	原単位
	人	t / 年	g / 人・日
瀬戸市	130,211	28,322	596
半田市	119,077	25,075	577
豊川市	186,021	40,706	600
刈谷市	150,843	31,380	570
安城市	187,860	33,925	495
西尾市	171,771	40,394	644
江南市	100,835	15,911	432
小牧市	152,944	25,341	454
稲沢市	137,592	25,756	513
東海市	114,479	21,326	510
計	1,451,633	288,136	544

注) 人口が10万～20万人の市

資料：一般廃棄物処理実態調査（平成29年度）

表 3-4 家庭系ごみ排出量原単位

(単位：g / 人・日)

			令和11年度
家庭系ごみ(資源除く)【現状推移】			596
可燃ごみ	生ごみひとしぼり運動の実施		-8.8
	生ごみの削減		-10.5
	紙類の分別徹底		-3.2
	ペットボトルの分別徹底		-0.1
	排出抑制		-25.5
不燃ごみ	金属・カン類の分別徹底		-0.1
計			547.8

積算資料

- ・生ごみの水切り $533\text{g (可燃ごみ)} \times 40.97\% \text{ (組成分析結果)} = 218.4\text{g (厨芥類)}$
 $218.4\text{g} \times 81\% \text{ (生ごみの水分)} = 176.9\text{g}$
5%削減 $176.9\text{g} \times -5\% = -8.8\text{g}$
- ・生ごみの削減 $218.4\text{g (厨芥類)} - 8.8\text{g (水分)} = 209.6\text{g}$
5%削減 $209.6\text{g} \times -5\% = -10.5\text{g}$
- ・紙類の分別徹底 $533\text{g (可燃ごみ)} \times 12.07\% \text{ (組成分析結果)} = 64.3\text{g}$
+5%の資源化を目指す $64.3\text{g} \times -5\% = -3.2\text{g}$
- ・ペットボトルの分別徹底 $533\text{g (可燃ごみ)} \times 0.30\% \text{ (組成分析結果)} = 1.6\text{g}$
+5%の資源化を目指す $1.6\text{g} \times -5\% = -0.1\text{g}$
- ・その他発生抑制の推進 $(533\text{g (可燃ごみ)} - 8.8\text{g (水切り分)} - 10.5\text{g (生ごみの削減)})$
 $- 3.3\text{g (紙類・ペットボトルの分別徹底)} \times -5\% = -25.5\text{g}$
- ・金属缶類の分別徹底 $20\text{g (不燃ごみ)} \times 13.79\% \text{ (組成分析結果)} = 2.8\text{g}$
+5%の資源化を目指す $2.8\text{g} \times -5\% = -0.1\text{g}$

③資源化率

本市の資源化率は比較的高く（表 3-5 参照）、平成 30 年度において 26.8% となっていますが、将来、紙類の減少に伴い、資源化率も減少すると予測されます。

目標は、25% を目指します。（国の目標が約 27%、県の目標が約 23%）

資源化率：25%以上（令和 11 年度）

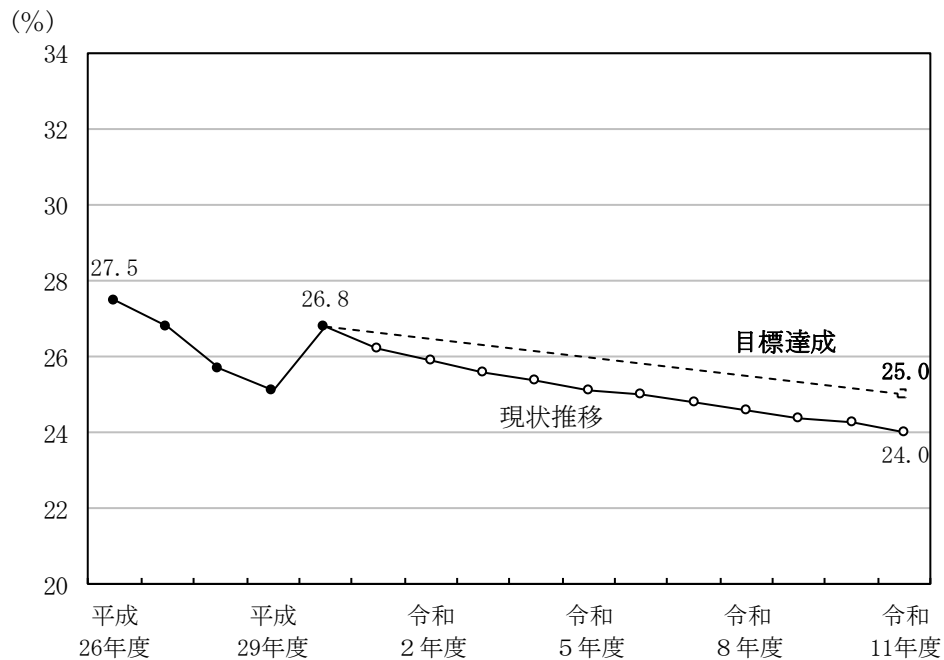


図 3-3 資源化率の実績及び見通し

《考え方》

世の中の状況において、ごみ量の減少に伴い、資源量も減少しつつあります。また、古紙においては、大型スーパーや空き地などに古紙回収ステーションが設置されており、資源量が把握できない状況にもあります。

分別の徹底を図ることにより目標値の達成を目指します（表 3-6 参照）。

表 3-5 愛知県下のリサイクル率

(単位：％)

	リサイクル率
瀬戸市	14.6
半田市	22.4
豊川市	25.1
刈谷市	18.4
安城市	21.1
西尾市	15.5
江南市	25.5
小牧市	35.6
稲沢市	19.6
東海市	21.4

資料：一般廃棄物処理実態調査（平成29年度）

表 3-6 資源化率

(単位： t /年)

			令和11年度
ごみ総排出量			63,953
	家庭系可燃ごみの減量化量		-2,946
	事業系可燃ごみの減量化量		-769
計			60,238
総資源化量			15,379
家庭系ごみ	可燃ごみ	紙類の分別徹底	212
		ペットボトルの分別徹底	5
	不燃ごみ	金属・カン類の分別徹底	9
		計	
			25.9%

注) 可燃ごみの減量化に伴い、スラグ・メタルの量が減少するが、概算のためここでは考慮していない。

積算資料

- ・紙類の分別徹底 $35,046\text{t (可燃ごみ)} \times 12.07\% \text{ (組成分析結果)} = 4,230\text{t}$
 $+ 5\% \text{ の資源化を目指す } 4,230\text{t} \times 5\% = \boxed{\text{約 } 212\text{t}}$
- ・ペットボトルの分別徹底 $35,046\text{t (可燃ごみ)} \times 0.30\% \text{ (組成分析結果)} = 105\text{t}$
 $+ 5\% \text{ の資源化を目指す } 105\text{t} \times 5\% = \boxed{\text{約 } 5\text{t}}$
- ・金属缶類の分別徹底 $1,315\text{t (不燃ごみ)} \times 13.79\% \text{ (組成分析結果)} = 181\text{t}$
 $+ 5\% \text{ の資源化を目指す } 181\text{t} \times 5\% = \boxed{\text{約 } 9\text{t}}$

参考 ごみの性状

可燃ごみの組成分析は表 3-7 に、不燃ごみの組成分析は表 3-8 に示すとおりです。

表 3-7 可燃ごみの組成分析（5 か年平均）

(単位：%)

品 目	比率
厨芥類	40.97
段ボール	0.69
新聞紙、雑誌・広告	6.54
紙パック	0.60
その他紙製容器包装	4.24
その他雑がみ	17.66
布類	3.00
草・せん定枝	2.42
その他木・竹・ワラ類	0.53
ペットボトル	0.30
白色トレイ	0.15
プラスチック製容器包装	11.31
その他プラスチック類	7.60
ゴム・皮革類	0.33
その他可燃ごみ	0.95
不燃物類	0.47
その他細雑類	2.24
計	100.00

紙類計
12.07%

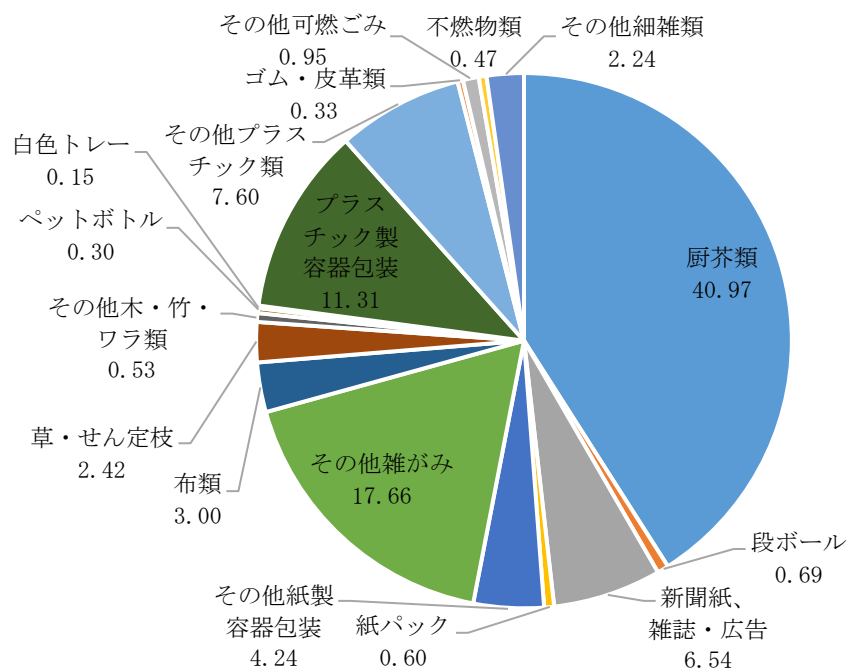


表 3-8 不燃ごみの組成分析（5 か年平均）

(単位：%)

品 目	比率
容器包装プラ	1.86
その他プラスチック	10.91
ゴム・皮革類	0.72
その他可燃ごみ	2.90
金属・カン類	13.79
ビン類（飲料・食品用）	4.99
その他のビン、ガラス、陶磁器類	36.96
家電品	17.31
スプレー缶	0.57
ライター・蛍光管・水銀体温計	0.17
乾電池	1.05
複合品類	7.14
その他細雑類	1.63
計	100.00

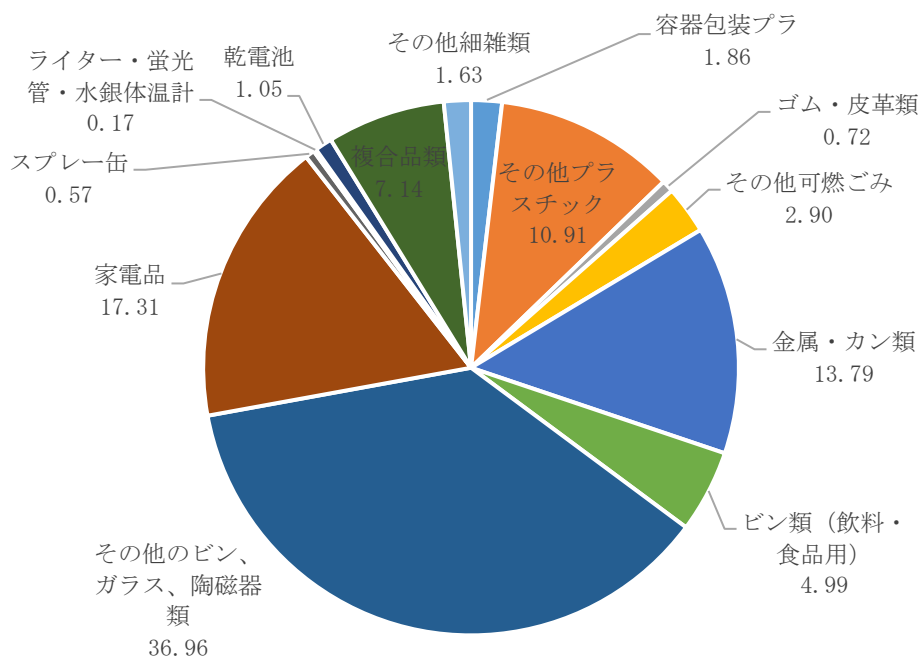


図 3-5 不燃ごみの組成分析（5 か年平均）